

令和3年2月18日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

開催日	令和3年2月18日(木)		
場 所	教育委員会室		
開 会	午後3時00分		
閉 会	午後3時57分		
出席委員			
教 育 長	加 藤	裕 之	
委 員	阿 部	博 道	
委 員	坂 根	慶 子	
委 員	浅 松	三 平	
委 員	白 石	祐 一	
説明のために出席した職員			
教育委員会事務局次長	青 木	剛	
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	宮 本	知 幸	
学 務 課 長	西 村	克 己	
指 導 室 長	加 藤	康 弘	
すみだ教育研究所長	石 原	恵 美	
地域教育支援課長	石 岡	克 己	
ひきふね図書館長	高 村	弘 晃	

2 議題について

(1) 報告事項

- 第1 教育課題の進捗状況について(資料1)
- 第2 令和3年度区立小・中学校給食費について(資料2)
- 第3 令和3年度図書館・図書室の蔵書点検に伴う休館について(資料3)

3 会議の概要について

- **教育長** それでは、本日の教育委員会を開会いたします。本日の会議録署名人は、白石委員にお願いします。

報告事項第1・・・資料1-1～1-3

「教育状況の進捗状況について」、庶務課長、指導室長、すみだ教育研究所長が資料のとおり説明する。

- **庶務課長** （「学校における働き方改革の推進」について説明。）
- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑ございますか。
- **坂根委員** 区のホームページの「すみだG I G Aスクール構想について」というページを見ましたが、タブレット端末の使い方やルール等がわかりやすくまとまっていて、丁寧な周知の仕方です。とても良いと思いました。また、墨田区は先進的にG I G Aスクール構想に取り組んでいるということが話題になっています。先日学校に行ったときには、庶務課の方に、いろいろとサポートしていただき、とても感謝しているというお話を伺いました。
- **浅松委員** 学校徴収金について、学校の教員が、未納の家庭に支払いをお願いするために、家庭訪問したり、校長面接をしたりしています。それでも支払いをしない方もいて、学校としては大きな負担になっています。また、各教科の問題集などを買うことが多くあり、教材費がかさみ、保護者の負担が大きくなっている状況があります。G I G Aスクール構想を推進していくことが、精査する良い機会になると思います。
- **指導室長** 子どもたちのタブレット端末の中にデジタルドリルが入るので、紙の教材を見直すことについて、校長会等と調整していきたいと思います。
- **教育長** 今まで宿題として漢字ドリルや計算ドリルを1ページずつやる、という課題を出していましたが、今後は「ミライシード」というアプリを活用していきたいと思っています。アプリを活用することで、学習レベルに合った課題を出すことが容易になったり、採点が自動でできるようになることで時間を有効に使えたり、苦手分野、得意分野の分析を行いやすくなります。
- **坂根委員** 浅松委員に伺いたいのですが、学校が毎年度、学校徴収金が未納の保護者の対応をしているのですか。
- **浅松委員** 私が勤務していた学校では、毎年度、何件か対応していました。
- **学務課長** 学校徴収金のうち、7割は給食費が占めています。令和元年度給食費の滞納者は26人、滞納額は103万円です。令和3年1月末現在は、滞納者は約700人で、滞納額は約600万円です。年度末には、滞納額が100万円前後におさまる理由は、年度末になると支払う保護者がいるのと、先生が一生懸命督促しているからです。
- **浅松委員** 1万4千人ほどの児童・生徒がいて、滞納している人数は26人というのは少ないと思いました。
- **阿部委員** 年度末に回収できなかった場合はどうするのですか。
- **学務課長** 未回収分を不納欠損処分することはないので、滞納額は累積していきます。回収の対応は、各学校が行っています。
- **坂根委員** 学校の先生にとっては、時間的にも精神的にも負担が大きいです。何とか働き方改革の中で、改善する方法はないのでしょうか。

- **学務課長** 給食の公会計化の考え方があります。文部科学省が全国の自治体1,700余りを調査したところ、26%しか公会計化にしていないという結果が出ています。公会計化されると、学務課でデータを管理し、条例に基づき5年間は債権管理し、5年間回収できなかった債権は不納欠損処分をしていくことが可能になります。この方法は考え方の一つです。
- **教育長** 事務の共同化と併せて、検討していきたいと思っています。ただ、公会計化されると滞納者が増える可能性もあります。なぜなら、先生からの催促だから払う場合があるからです。全国でなかなか公会計化に踏み切れないのは、このような理由もあります。墨田区は先生たちが力を入れて徴収してくれているので、滞納者はかなり少ない状況です。自治体によっては、滞納している保護者の子どもには給食を提供しないという強硬手段を取っているところもあります。就学援助を受けている方は払っているが、就学援助を受けていない方が払っていないということもあります。学校徴収金は根深い問題があります。
- **白石委員** 払えないのではなくて、払わないということでしょうか。
- **教育長** 実際に払えない人もいるかもしれませんが、払わない人もいます。就学援助の水準をぎりぎり満たしていない方は、支払いが難しい場合があるかと思います。
- **坂根委員** 新型コロナウイルス感染症の影響で、急に収入が下がって払うことが難しくなった方もいるのではないのでしょうか。
- **学務課長** 就学援助は、原則前年の収入額を基準に認定していますが、ほかにも認定できる基準を設けていますので、申請者の事情を伺いながら対応しています。
- **坂根委員** 皆さんが知っていればいいのですが、周知は十分に行っているのでしょうか。
- **学務課長** 例年、春先に就学援助の申込みについて周知をしていますが、今年度は、秋にもう一度、英語と中国語でのご案内も含めて、周知しています。
- **教育長** 就学援助は、墨田区では教育委員会事務局の学務課が担当している業務ですが、自治体によっては、学校を通して申請してもらったところもあります。それぞれ一長一短があって、教育委員会事務局が担当していると、学校とのやりとりがなくて良いという保護者もいるし、学校が事情を把握していた方が良いという考えもあります。
- **指導室長** (「新学習指導要領への対応」について説明。)
- **教育長** ただいまの説明について、何かご質問ございますか。
- **白石委員** 海外派遣は、この情勢だと今年度同様、国内英語体験に変更するのではないかと思います。研修の内容は、海外派遣の場合と国内英語体験の場合とで内容を変えるのでしょうか。また、子どもたちにタブレット端末が配布されたので、オーストラリアの生徒とオンラインでやりとりができると良いなと思ったのですが、いかがでしょうか。
- **指導室長** 現段階ではオーストラリアへ行く計画を立てています。4月の中旬頃に保護者会があるので、それまでにどちらにするか、研修内容の方針も含めて決定する予定です。オンラインでオーストラリアの生徒たちと交流ができないか、というご提案についてですが、現在検討はしていなかったのですが、どのようなことができるか考えてみたいと思います。
- **教育長** 以前、オンラインで錦糸中学校の生徒とオーストラリアの生徒が交流をしたことがあります。ただ、インターネットの通信速度が十分でなく、途中で止まってしまうこともありました。また、オーストラリア側との調整の問題もあって、オンラインでの交流が進みませんでした。そこで、指導室がリンク・インタラクというALTを派遣している会社と交

渉して、オンラインでネイティブの人と会話をする、という内容が契約の中に入ったので、来年度から新しい取組が始まります。

- すみだ教育研究所長 「学力向上新3か年計画（第2次）の推進」について説明。）
- 教育長 ただいまの説明について、何かご質疑ございますか。では、まず私の方から質問します。「学習ふりかえり期間」で、新たな取組はありますか。
- すみだ教育研究所長 2月から、すみだ教育研究所の職員が各校を訪問し、進捗状況の確認やアドバイスをしています。
- 坂根委員 「学習ふりかえり期間」にアンケートなどは紙ベースでやっているのですか。
- すみだ教育研究所長 紙のチェックシートを使用して、各学校の進捗状況を確認しています。
- 坂根委員 デジタルで行うことで、学校間で共有しやすくなることもあると思いますが、デジタル化することは考えているのですか。
- すみだ教育研究所長 デジタル化することで、チェックシートが効果的に活用できるようになるのか、またその場合はどのようにしたら良いのかについて、今後検討したいと思います。

報告事項第2・・・資料2-1

「令和3年度区立小・中学校給食費について」、学務課長が資料のとおり説明する。

- 教育長 ただいまの説明について、何かご質疑ございますか。
- 坂根委員 和牛を使った給食の提供はもう行ったのでしょうか。
- 学務課長 すでに提供を開始しています。本日は、緑小学校で東京都の視察がありました。
- 坂根委員 子どもたちの反応はどうでしたか。
- 学務課長 喜んで食べていました。「生きてきた中で一番おいしかった。」という児童もいました。栄養士の話では、いつも少食な児童がおかわりをしてたくさん食べてくれた、ということでした。
- 教育長 東京都の視察は、学校での新型コロナウイルス感染症対策と和牛肉の給食が対象でした。視察に来られた東京都の方は、高学年だけでなく、小・中学年の児童も、給食の配膳中に静かに待っている姿が印象に残った、と話していました。ただ、今日は笑顔で食べるころはなかなか見られませんでした。恐らく、緊張していたのだと思います。
- 阿部委員 「食育交付金」の交付主体と交付先はどこなのでしょう。
- 学務課長 例えば給食単価が一人当たり240円の小学校低学年の場合、その1割増しの264円×3食分×児童数分を学務課から学校に対して、交付しています。学校はその予算で特別食代、例えばオリンピック・パラリンピック教育の一環で各国の料理を提供するときなどに、食材購入費として使用しています。

報告事項第3・・・資料3-1

「令和3年度図書館・図書室の蔵書点検に伴う休館について」、学務課長が資料のとおり説明する。

- 教育長 ただいまの説明について、何かご質疑ございますか。
(質疑なし)

- **教育長** 以上で、本日の議事は全て終了しましたが、そのほかに、委員の皆さんまたは事務局から何かございますか。
- **浅松委員** 昨日2月17日にオンラインで開催された、墨田区立幼稚園教育研究会研究発表会に出席しました。最初は音がハウリングするトラブルがありましたが、その後は順調でした。十文字学園女子大学の桶田教授の講演では、画面に大きく講演者の顔が映し出され、大きな会場で講演を聞くよりも、集中して話を聞くことができました。オンラインでの開催も一つの選択肢として、研修のあり方を見直していけると良いと思いました。講演の中では、幼稚園教育要領にも記載されている幼児期に育みたい「10の姿」についてのお話がありましたが、基礎的な部分での「10の姿」というのは、小学校や中学校の教員も、子どもたちとの関わりの中で考慮していくことが大切だと思いました。また、教員が指導の基礎を見直す良いチャンスになると思います。校長先生にも、機会をみつけて指導室から伝えていただければと思います。
- **坂根委員** 私は、墨田区立幼稚園教育研究会研究発表会と墨田区立小学校教育研究会研究発表会は自宅からオンラインで参加し、墨田区立中学校教育研究会研究発表会は堅川中学校から参加しました。区小研はT e a m s、区中研と区幼研はZ o o mという会議システムを使っていました。区小研はメイン会場がリバーサイドホールのイベントホールでとても広かったことと、カメラの撮影方法が影響しているのか、タブレットの画面では見にくい部分がありました。私が挨拶した区中研は、講師の方がパソコンやカメラなど一式持ってきて撮影、配信していました。何人かの中学校の先生に感想を聞いてみたところ、「大変良かった」と言っていました。区幼研のオンライン配信も見やすかったです。昨日の区幼研で気がついたことが、まず、マスクしながら話す場合は、大きい声の方より、ぼそぼそとしゃべる方のほうが、息の音が入らず、かえって聞き取りやすかったです。次に、話をしている方の顔が真っ暗なことがあったので、ライトの工夫が必要だと思いました。通信環境による映像と音声の配信の遅れや、ハウリングの課題については、少しずつ改善していけると良いと思います。発表内容についてですが、区内の内輪の内容になりがちなので、広い視点で見ることや、書き方をもう少し考えると良いものになると思いました。具体的な意見については、担当の方に伝えてあります。区中研の講演「G I G Aスクール構想の実現に向けて」の「学びをエンパワーメントするICT学習環境の生かし方」の中で、「1 幻滅期を乗り越える」「2 新学習指導要領掛けるG I G Aの基礎体力づくり」「3 学ぶことは楽しい」「4 1人1台の落とし穴」のお話がありました。1番目の「幻滅期を乗り越える」が皆様に共有したいことなのですが、活用を始めて2年くらいたつと、今までやってきたことにだんだん幻滅してくるので、それをどうやって乗り越えるかが大事であるとのことでした。そのことを頭に置きながら、活用方針を考えていく必要があるのではないかと思います。また、一番大事なことは、「言語化することだ」とおっしゃっていました。ICT機器を活用して、学習したことを言語化するということは、つまり自分で課題解決ができるということであり、ここがポイントだと思って聞いていました。
- **教育長** タブレット端末を活用していくにあたり、何が何でもタブレット端末を使うのではなく、紙で効果があるものは紙媒体を活用し、タブレット端末や電子媒体で効果があるときはそちらを使っていきたいと思います。無理にタブレット端末を活用しようとすると、子ども

もたちの学力は下がってしまいます。現場任せでは、回り道になってしまうので、基本的なものは指導室、すみだ教育研究所、庶務課の3課で連携して、先生たちが分かりやすいモデルをつくっています。

- **坂根委員** 教育経済学がご専門の慶應義塾大学の中室牧子教授が言っているのですが、パソコンを使ったから成績が上がるということではないということです。OECDのPISAの調査を比較しても分かります。ただ、世界的な標準が変わっていく中で、パソコンを使っていく必要はあり、その上で学力を上げるということを考えていくことが大切です。
- **教育長** GIGAスクール支援員が学校に行って、端末やアプリの使い方を教員に伝えています。まずは、使い方をマスターしてもらうことを優先して取り組んでいて、徐々に浸透してきています。使い始めると、何をどのように使っていいかが分からなることが想定されるので、各課が連携して効果的な使い方を検討しているところです。今後学校に周知していくつもりです。全体構想としては、来年度に本格稼働するのですが、すぐに完璧な活用ができるのではなく、改善を重ねながら、徐々に良くなっていくと考えています。例えば、ジグソー学習を学校の教員が簡単に活用できる手法を指導主事が考え始めています。それについてはまたご報告させていただきたいと思います。ほかになれば、これで教育委員会を閉会します。